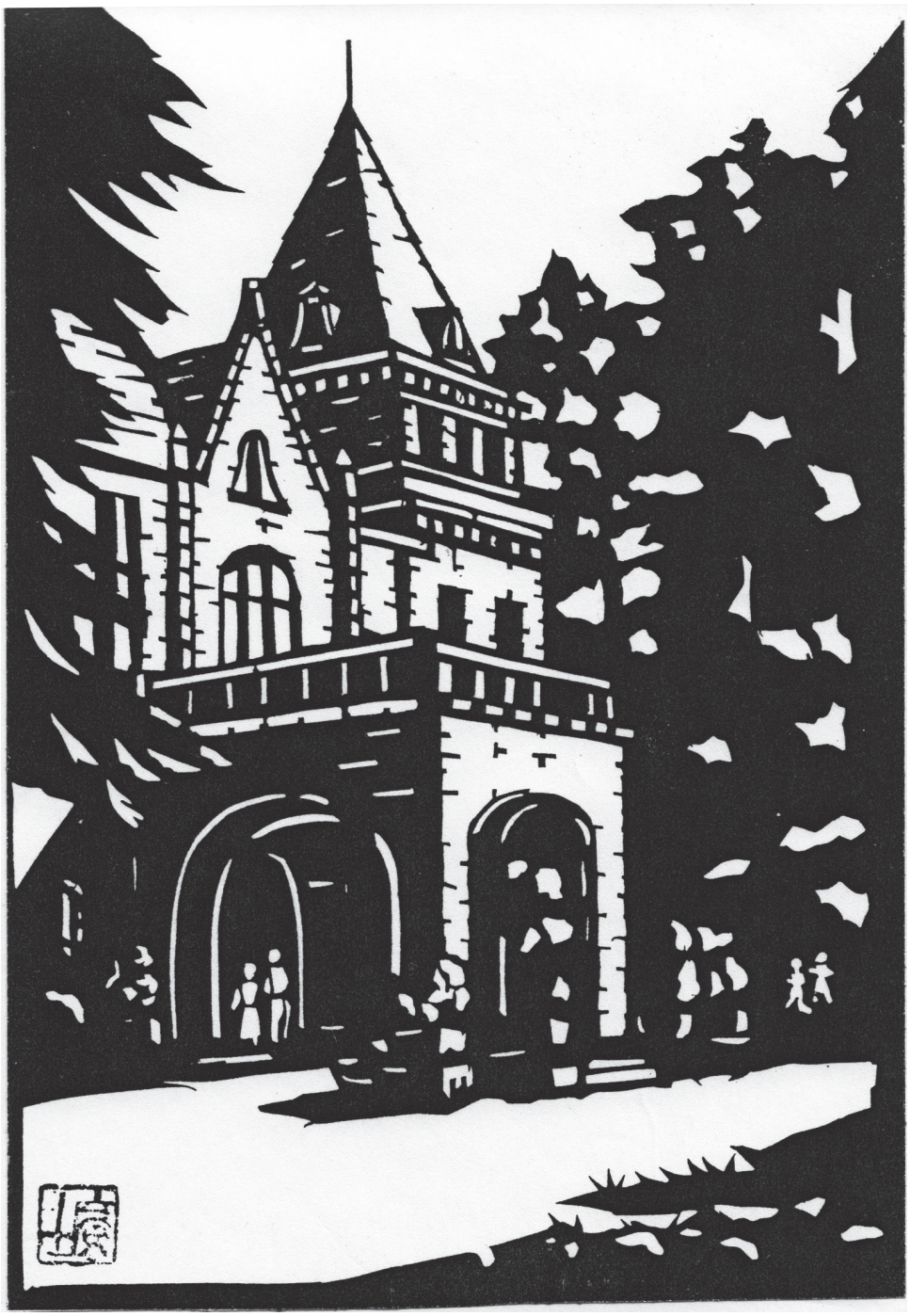
SSKP　東京肝臓のひろば　第 220 号　1977 年12 月3日　第3種郵便物認可(毎月18 回1、2、3、5、6、7の日発行)　2017 年10 月14 日発行　SSKP　増刊通巻第6729 号

東京 肝臓のひろば

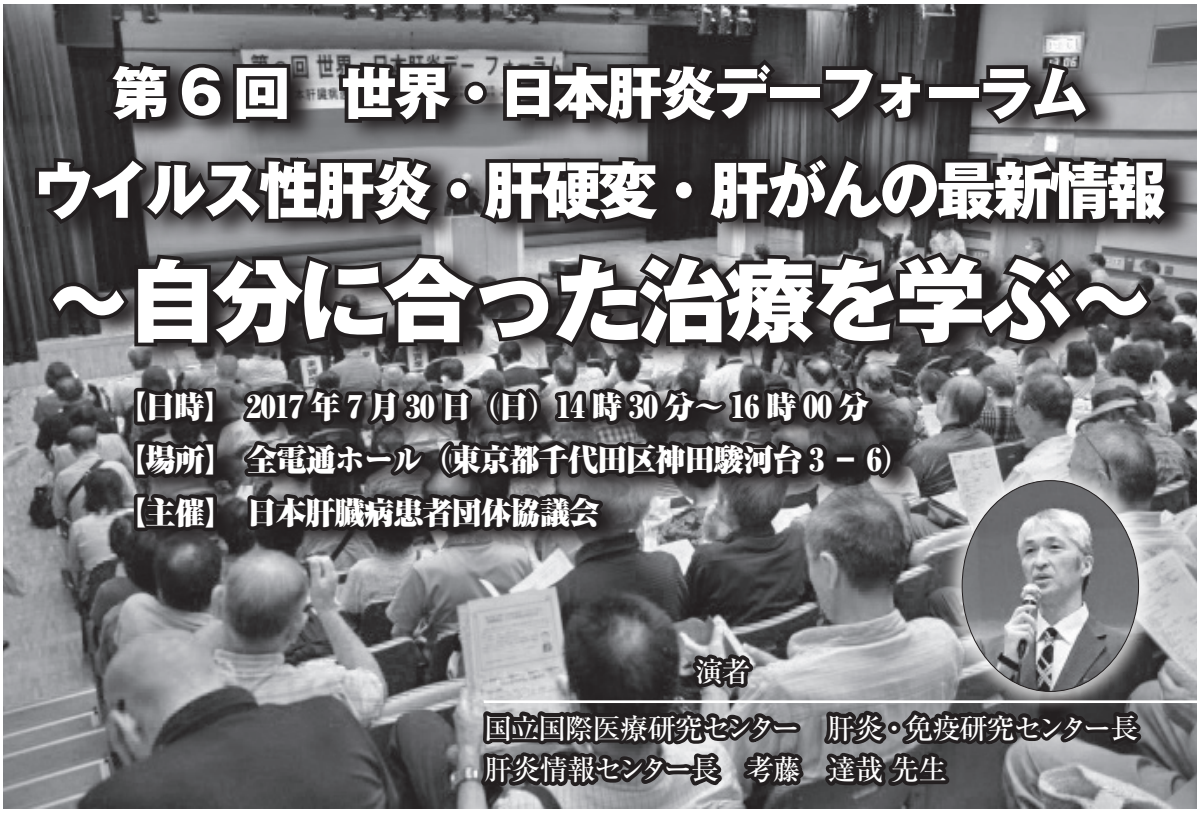
平成 29 年(2017 年)10 月号　**第 220 号**

特定非営利活動法人　**東京肝臓友の会**

〒161-0033 東京都新宿区下落合3-14-26-1001
電話（03）5982-2150　振替　00120-6-40564
FAX（03）5982-2151　口座名　東京肝臓友の会
http://www.tokankai.com



旧前田侯爵邸洋館　―東京・目黒区駒場―　　きり絵・佐藤廣士さん



司会（村田）司会進行の日肝協の村田と申します。よろしくお願いいたします。（拍手）

まず考藤先生の略歴をご紹介させていただきます。１９８６（昭和61）年、大阪大学医学部をご卒業後、大阪大学医学部附属病院第一内科を経まして、１９９８（平成10）年には米国ピッツバーグ大学に留学され、腫瘍免疫学を学ばれました。２００３（平成15）年には大阪大学大学院医学系研究科、樹状細胞制御治療学准教授になられまして、２０１３（平成25）年には国立国際医療研究センター　肝炎・免疫研究センター　肝疾患先進医療研究室医長になられました。現在は、肝炎・免疫センター長と肝炎情報センター長を兼務されております。

先生の信条をご披露させていただきます。肝疾患の研究を選んだ理由は、肝炎ウイルスが巧妙に免疫系から逃れて、病気（つまり炎症→線維化→肝がん）を引き起こす仕組みを明らかにしたいと思ったからだということです。先生の今まで歩んでこられた熱意が伝わってまいります。それでは考藤先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

1. 肝硬変とは

考藤　ご紹介をどうもありがとうございます。国立国際医療研究センターの考藤と申します。今日はできるだけ新しい治療法について情報提供させていただきたいと思って用意してきました。皆さん、お疲れのところかと思いますが、少しおつき合いいただけたらと思います。

今ご紹介いただきましたように、私はずっと肝疾患の診療と研究をやってまいりました。自分のしている研究や、その成果が何とか臨床の場面で患者さんのためになれば、という思いでずっとやってきていますが、もう少し貢献させてもらえる時間をいただきたいと思う昨今です。

Ⅰ部のほうでもいろいろご紹介がありましたように、B型肝炎研究が、今、本当に重要な課題として取り上げられています。それに加

えて、肝硬変の患者さんたちに有効な治療法は果たして提供できるのかを肝疾患での大きな問題だと常々考えまして、私たちも研究してまいりました。もう少し時間をいただければ、有効な治療を提供できるのではないかとやっと見えてきたところがありますので、今日は主に臨床のお話をご紹介させていただきますが、別の機会を頂戴しましたら、研究の進展状況もお話しさせていただくことができればと考えています。

(1) 症状と経過

それでは早速始めます。今日は肝硬変を中心にして肝炎を見ていく形で資料を用意しました。肝硬変は、かつては不治の病と考えられていました。現在も非常に難しい状態というのは皆さんもご存じのとおりです。肝臓を腹腔鏡で見ますと、慢性肝炎の肝臓と肝硬変の肝臓は一見して違いがわかります。(図1) これですぐに診断がつくと言われるぐらいに外見が違います。「肝硬変」は読んで字のごとしで、肝臓が硬く変わるということです。表面を見ても、ごつごつとした山のようなこぶがたくさんできて、一見して具合が悪そうな印象があります。

一概に「肝硬変」といいましても、我々臨床医は、代償性と非代償性という大きく2つに分けて考えます。言葉は少し難しいですが、肝不全症状のありなしで分けると考えていただければご理解しやすいかなと思います。

肝不全、つまり肝臓の機能が不全状態になって、いろいろな合併症が表面に出てきます。例えば黄疸であり、腹水であり、浮腫(むくみ)であり、肝性脳症、あるいは静脈瘤等からの消化管出血、こういった具合の悪い症状が肝不全症状であり、こういう症状を伴う方を、我々は非代償期の肝硬変の方だと認識しています。

わかりやすい写真をご覧いただきます。(図2) 例えば目が黄色くなるとか、肝性脳症で手が震える「羽ばたき振戦(しんせん)」という症状、あるいは腹水が溜まる、足がむくむ、肝がんができる。図2の中央は食道静脈瘤で、出血をすると非常に致命率が高い合併症です。このような非代償期に合併する症状は、非常に生命に関係してまいります。

それはこのようなデータからも明らかです。(図3) 縦軸が生存率で、横軸に時間の経過を月単位で見ています。0から始まって右に進むにつれてカーブが下がってくると、亡くなっている患者さんが多い。下のほうに急激に下がっているカーブは、早く亡くなる方がたくさんいるということです。

これは合併症のありなしで、いわゆる生命予後という、診断からの生存率を見たグラフです。1番が合併症がない肝硬変の方で、100カ月ぐらいで80%ぐらいの生存率になります。しかし4番を見ていただきますと、難治性腹水という、いろいろな薬を使ってもなかなか十分にコントロールできない腹水の合併症がある方です。1番のカーブに比べて急激に下がって、亡くなる率が非常に高いことになります。つまり、そのような合併症を伴う肝硬変の方は、合併症がない方に比べてやはり生存率が悪くなります。単純に考えますと、合併症が出てこないようにコントロ

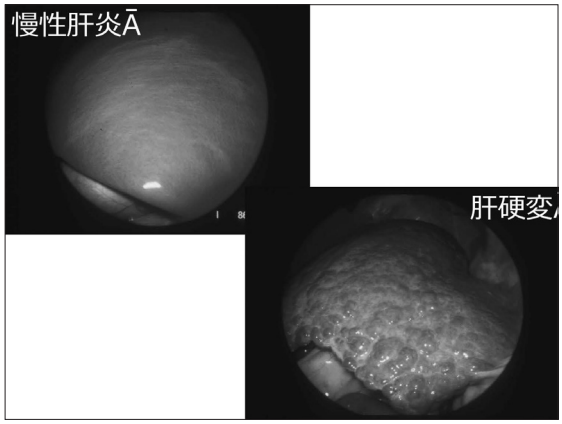


図1

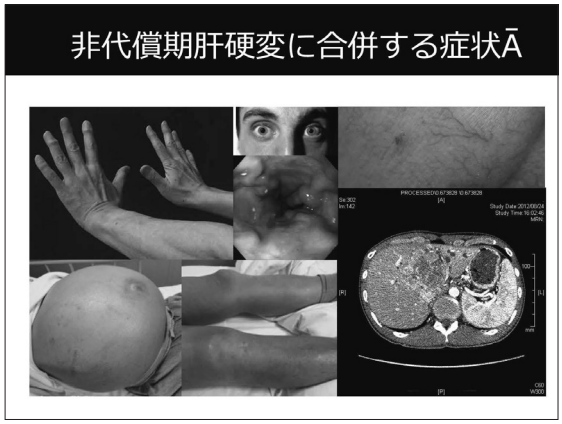


図2

ールする必要があるのです。

それをわかりやすく概念としてお示ししたスライドです。（図4）肝臓の病気は、慢性肝炎から肝硬変の代償期、あるいは非代償期と一方向に進んで、なかなかもとに戻らない病気ではないかと考えられてきました。私が医者になった当時は、肝硬変という病名をつけるのは死刑宣告に等しいと患者さんも受け止めておられまして、「ああ、肝硬変ですか。もう私は長くないですね」とすぐに思ってしまわれる状況でした。残念ながら現時点でも、肝硬変の病名に過敏に反応される患者さんたちはいらっしゃいます。それはやはり有効な治療法がまだ十分に届けられていないからです。我々は、この一方向性の流れを、できたら逆にしたいということで、診療や研究を続けてまいったわけであります。

肝硬変は、最終的には肝臓の組織を見ることによって診断されます。肝生検という言葉はよくお耳にされることがあると思います。生検用の針を使って肝臓の組織を一部取りまして顕微鏡で見ると、こちら（図3下左側）が軽い慢性肝炎、こちら（図3下右側）が肝硬変で、赤い（色の濃い）部分が線維になります。一見しておわかりのとおり、肝硬変になると線維が非常に増えていますし、肝臓の形自体が慢性肝炎よりも大きく変えられている。そう考えますと、やはり慢性肝炎から肝硬変に進んでいくことは非常に大きな変化だとわかります。

肝臓学会が中心となって、肝硬変の原因を調べた2014年の調査結果です。肝硬変と診断された方の原因は、半分くらいがC型肝炎でした。以前はもう少し多くて、2010年当時は70％ぐらいだったと思います。C型肝炎で肝硬変になる方が少し減ってきました。C型肝炎で肝がんになって亡くなられる方が増えたという考え方もありますが、C型肝炎の肝硬変の方は減っています。残りがB型肝炎、あるいはアルコール性の肝硬変。免疫絡みの病気で肝硬変になっている人も少数ですけれどもいらっしゃるという割合です。（図5）

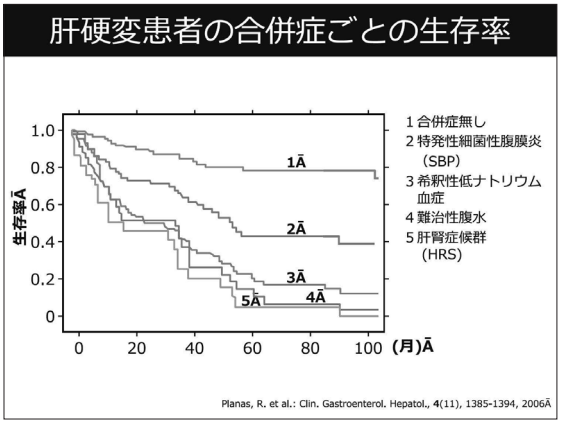


図3

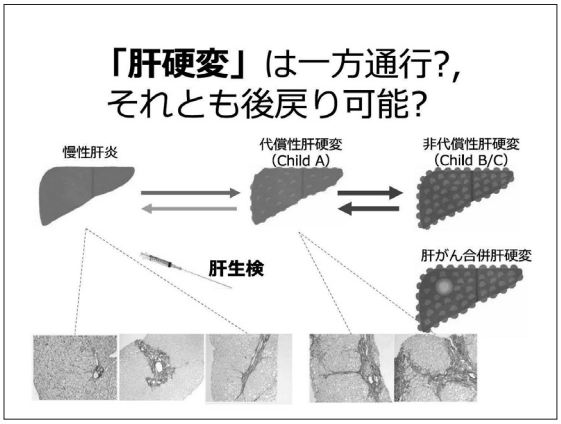


図4

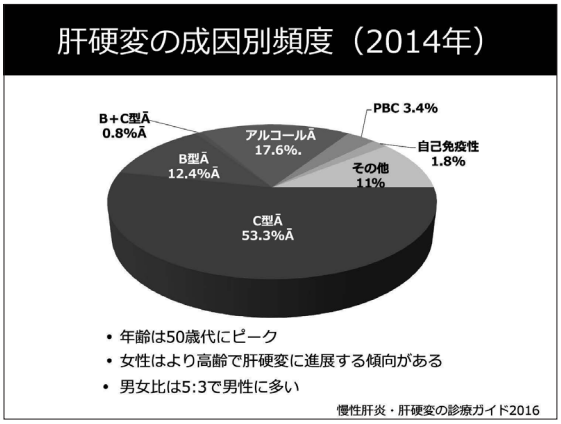


図5

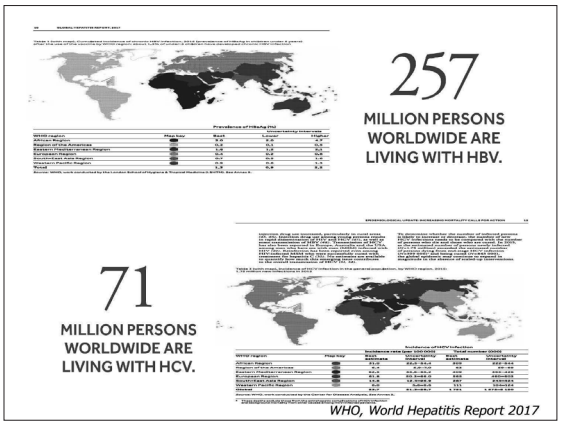


図6

同病者による面談相談

☆新薬のこと、治療のこと、なんでもお気軽にご相談ください☆

日　時：**11 月 30 日(木)・1 月 30 日(火)**(12月30日はお休みです)

13 時 30 分～ 16 時 30 分(1 人 1 時間)

場　所：東京都障害者福祉会館 1 階 相談室

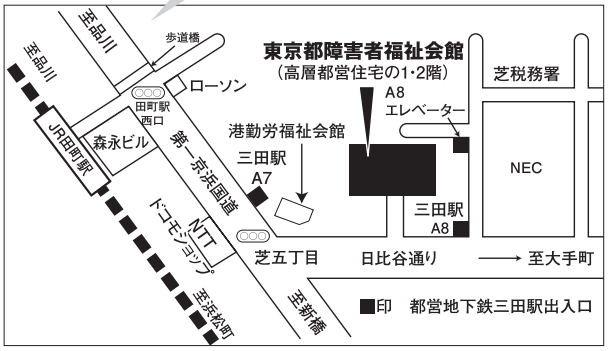
対　象：東京都在住、在勤の方優先

主　催：東京都

相談料：無料(予約制)

相談員：米澤敦子(東京肝臓友の会事務局長)

【交通案内】
◆ JR「田町駅」西口徒歩 5 分
◆都営三田線「三田駅」出口 A8 徒歩 1 分
◆都営浅草線「三田駅」出口 A7 徒歩 1 分



申込方法

電話でお申し込みください。

【申込先】都障害者福祉会館相談係

〒 108-0014　港区芝 5-18-2

電話 03(3455)6321

わかりやすい本です。スタッフおすすめ！

書籍のご紹介

肝臓がんの治療法（ラジオ波などの焼灼療法、塞栓・動注・分子標的薬による化学療法から、最新の切除法、陽子線・重粒子線治療、移植、免疫療法まで）について、経験豊富な先生方により図解付きで詳しく解説されています。

治療にぜひお役立てください。

東京肝臓友の会で販売しております。

[書籍代]1944 円 +[送料・手数料] 200 円

お電話にてお申込みください。

電話：03-5982-2150

(火曜～土曜 ＊祝日を除く、10 時～ 16 時)

編集人・東京肝臓友の会　〇三(五九八二)二一五〇　〒161―0033　東京都新宿区下落合三―一四―二六―一〇〇一
発行人・障害者団体定期刊行物協会　〇三(六二七七)九六一一　〒157―0072　東京都世田谷区祖師谷三―一―一七―一〇二

東京肝臓友の会「NASH部会」交流会のお知らせ

日　時：11月19日(日)13：30～15：30
場　所：東京都難病ピア相談室
申　込：不要
問合せ：東京肝臓友の会 03-5982－2150
（火～金　10時～16時）

お待たせしました！　いよいよ「NASH(ナッシュ)部会」が立ち上がります。
NASHの方、そのご家族の方、同じ病気で苦しんでいる同士、交流しませんか。
ぜひご参加ください！

東京医療センター主催

第36回肝臓病教室

第1部　解説！データ見方・考え方
菊池真大先生(東海大学医学部客員准教授東京医療センター消化器科)

第2部　肝炎の感染対策について
宮崎ありさ先生(東京医療センター 看護師)

日常診療で使われている検査やその検査項目についてわかりやすく解説します。是非お気軽にご参加をお待ちしています。

【日時】11月18日(土) 14時～16時(開場 13時半)
【会場】東京医療センター内　病棟会議室1階
(目黒区東が丘2-5-1　03-3411-0111)
救急外来からお入り下さい。
案内がありますので矢印に沿ってお進み下さい。
【申込】不要
【会費】無料

頒布価格500円(会費に含まれている)

本会報掲載の記事を転載する場合はご連絡ください。